

開催日程：令和6年2月6日（火）10：30～14：15

開催場所：和歌山大学教育学部附属小学校

事業内容：あいサポーター研修

対象者：附属小学校5、6年生他180名、（保護者、谷口莉子氏（和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課計画調整班主事）含む）

講師：竹川裕之氏、山口康平氏、黒柳友花氏（和太附属学校メッセンジャーチーム）

1. プログラム内容

あいサポーターとは何かということから始まり、その目的や歴史、また障がいについて「誰にでも生じうる」ものであるという危険性を説明した。

そして「障がいはどこにあるのか」という問いかけに対して子どもたちは、「心」や「身体」と個人モデルの部分に目を向けていたが、実は社会の構造に問題がある社会モデルがあり、障がい者だけでなく社会全体で解決に向けて取り組んでいく必要があることを、社会的障壁の具体例を挙げながら説明し共生社会の大切さを訴えかけた。

またDVDの視聴で障がいの種類が多種多様で、障がいの程度も個人差があり、それぞれに適した手助けの必要性を学んだ。

その後2チームに分かれ、車いす体験と手話体験、アイマスクをした視覚障がい体験をそれぞれの場で行った。

2. 所感（ふりかえり）

小学生にはちょっと難しい内容かと思ったが、パワーポイントに挿絵を入れながら丁寧に説明がなされ子どもたちにも十分浸透していているように感じた。

また時間が短かったので、車いす体験と手話、視覚障がい体験を2グループに分け、少人数で同時進行することで全員がすべての体験をできていたことが良いと感じた。

PTA主催であることと隣接する附属中学校の教員もあいサポートメッセンジャーとして講演し、多くの保護者も体験コーナーでお手伝いされており、さらに和歌山県からの参加あり、地域も巻き込んだ活動になっていることが素晴らしく感じた。

今後も継続してあいサポーターを増やし、メッセンジャーの養成にも力を入れていって頂きたいです。

